

# 韓日文化交流における韓国文化院の役割

(2022. 5. 13)

## 1. 文化に対する認識

- － (広い意味) 人間の精神的、物理的な活動の総体、生活様式など
- － (狭い意味) 創作、芸術活動の分野 (音楽、美術、映画など)
- 音楽、美術、小説などの創作は**表現の活動**：コミュニケーションの一部
- **コミュニケーション**は人間と人間、国と国の関係を維持する基本的な活動

## 2. 文化交流の特徴

- －文化と政治はコミュニケーションにおいて核心的な二つの柱
- 政治はゼロサムゲーム、文化はプラスサムゲーム

## 3. 韓日文化交流の転換点 (節目)

- －韓日基本条約(1965)、**韓日未来志向パートナーシップ宣言(1998)**
- 大衆文化の開放、韓日ワールドカップの共催、ヨン様など韓流の人気
- 断絶(1965以前) → **不均衡 (文化、1965-1998)** → 均衡 (1998-2012) →  
不均衡 (政治、2012-現在) ⇔文化交流が過去10年間の両国関係を支える。

## 4. 韓国に対してのイメージ (国家ブランド調査、海外文化院、2021)

- 韓国に対しての肯定的なイメージは平均 80.5%、ベトナム、トルコ、フィリピンなどの国は92%以上。日本は**35% (一番低い)**
- 韓国文化に対する関心は60%以上 → **矛盾な結果**

(診断) ①政治と文化を分離して認識 ②グローバルプラットホームの登場 ③コスパのいい韓流コンテンツ ④韓流の日常化

## 5. 韓日文化交流の現況 (コンテンツと観光)

### <文化コンテンツ>

- 全世界コンテンツ産業の規模は2兆4,320億ドル / 韓国は2.5%
- 韓国の総湧出額は5,124億ドル / **文化コンテンツは108億ドル**

- 成長率は年15.9%で非常に高い水準
- 韓日交流においては韓国は日本に12億ドル、日本は韓国に1億ドルを輸出

#### <観光交流>

- 韓国には1,750万人、日本には3,150万人の外国観光客が訪問(2019)
- 韓国には96万人、日本には25万人(2021)
- 韓日の観光交流は2019年には885万人、2021年には34,227人
- 観光交流は韓国と日本がウィンウィンできる分野ですので交流の規模を拡大する必要がある。経済的な面だけではなく人的交流の正常化は韓日関係の回復にも重要。
- 最近来日した韓国の政策協議代表団も人的交流の重要性を強調
- 日本のGOTOトラベル、韓国の文化遺産キャンペーンを連携するなどのお互いの訪問を活性化させるインセンティブも必要

### 6. 韓国文化院の現況と運営方向

#### <韓国文化院の現況>

- 現在28か国で33ヶ所に韓国文化院を開設
- 駐日韓国文化院は韓国政府が海外で開設した初めての韓国文化院
- 池袋、麻布時代を経て現在四谷でコリアセンターという形で運営中
- 観光公社日本支社、コンテンツ振興院日本ビジネスセンター、ATセンターなど文化関連機関がワンストップサービスを提供する。

#### <韓国文化院の運営方向>

- 文化院の運営において三つのキーワード：**均衡、未来、共生**
- 韓日両国民が**共感**できる事業の拡大、大衆と伝統文化をバランスよく紹介
- **未来世代**の交流を活性化
- コンテンツ、観光などウィンウィン、協力できる**分野の支援**
- オンとオフ、現代と伝統、コンテンツと観光などを連携する融合的な発信

日本国民から愛される韓日文化交流の懸け橋、文化資産になるのが目標